PsiberData 社製

ワイヤーエキスパート専用ソフトウェア eXport

ユーザーマニュアル

原田産業株式会社 情報通信チーム 〒100-0005　東京都千代田区丸の内 1 丁目 2 番 1 号　東京海上日動ビル新館
Tel：（03）3213－8391 Fax：（03）3213－8399
http://infocom.haradacorp/.co.jp

注意

本マニュアルはワイヤーエキスパート専用ソフトウェア eXport をご使用するために作成されております。また、本マニュアル、全ての情報や企業のロゴマーク、商標、映像や画像などの著作権は全て Psiber Data 社に帰属します。Psiber Data 社は当該ソフトウェアのインストールもしくは使用によって発生したとされるいかなる損失に対して責任を負うことは出来ません。

ワイヤーエキスパートまたは eXport に関する詳細な情報をご希望の場合は、

原田産業(株)情報通信チーム sales-info@haradacorp.co.jp までお問い合わせください。

eXport の動作環境(最低必要):

- Microsoft Windows® XP/7/8, 32-bit
- Intel Core 2 Duo, 2Ghz
- 200MB フリーディスクスペース(インストールに必要)
- 1GB(RAM)
- Microsoft .NET framework 4.0

システム要件(推奨):

- Microsoft Windows® XP/7/8, 64-bits
- Intel Core i3, 2.4Ghz 以上
- 4GB(RAM)

内容

第1章:はじめに

- プログラムの実行

第2章:プロジェクト管理

- 新規プロジェクトの作成
- 既存プロジェクトを開く
- 測定器からテスト結果をインポート
- USB フラッシュドライブからテスト結果をインポート
- SOR ファイルから OTDR テスト結果をインポート
- デバイスから
- USB フラッシュドライブから
- テスト結果の出力
- PC から装置を閲覧

第3章:データ管理

- テスト結果を閲覧
- テスト結果を閲覧 – Y 軸を反転
- テスト結果を閲覧 – 線形対数
- テスト結果を閲覧 –マーカー
- データの編集
- データの検索

第4章: 設定の変更

- テスト結果の設定変更
- 長さ単位の選択
- レポート形式の選択

第5章:オプション

- 装置ソフトウェアのアップデート
- List-Based テスティング– 階層
- List-Based テスティング – ポイントツーポイント

第6章:ローカリゼーション

- 言語の選択

第1章 –はじめに

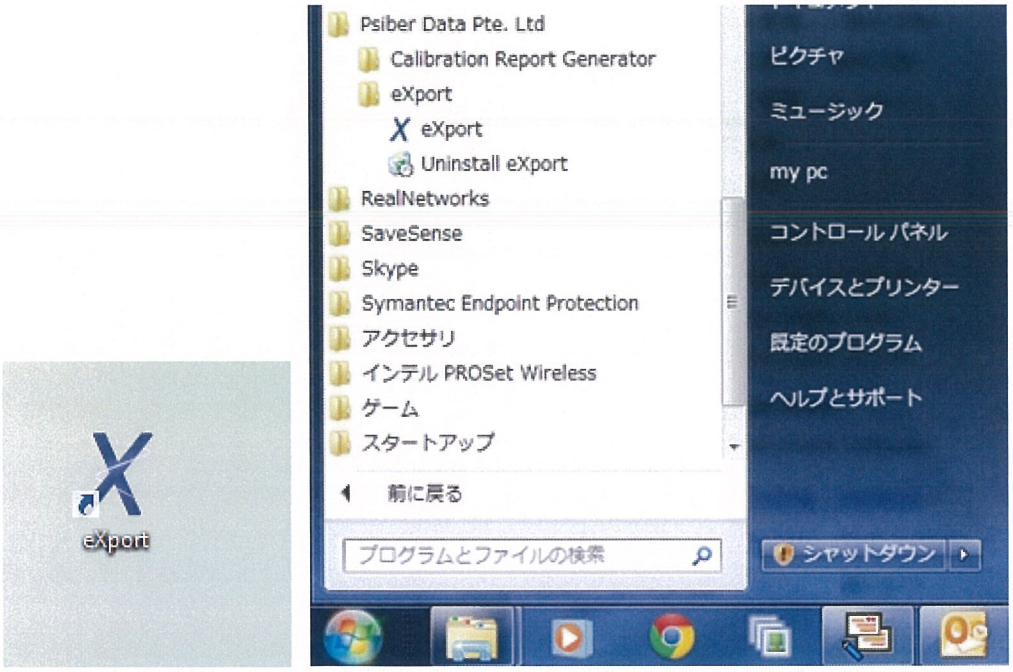
作業を開始する前に、Psiber Data 社製ソフトウェア eXport を PC に予めインストールされていることをご確認ください。eXport の入手方法・インストール手順の詳細については、インストールマニュアルをご参照ください。

eXport は Psiber Data 社のワイヤーエキスパート WX シリーズ用 PC ソフトウェアです。ワイヤーエキスパート本体または OTDR の SOR ファイルから試験レポートを作成し、一般的に使用されている CSV、PDF 形式でデータを出力することが可能です。本ソフトウェアは多くの品質・機能テストを繰り返し、最新版が常に最新の通信産業規格と傾向や条件を確実に満たすようにしております。

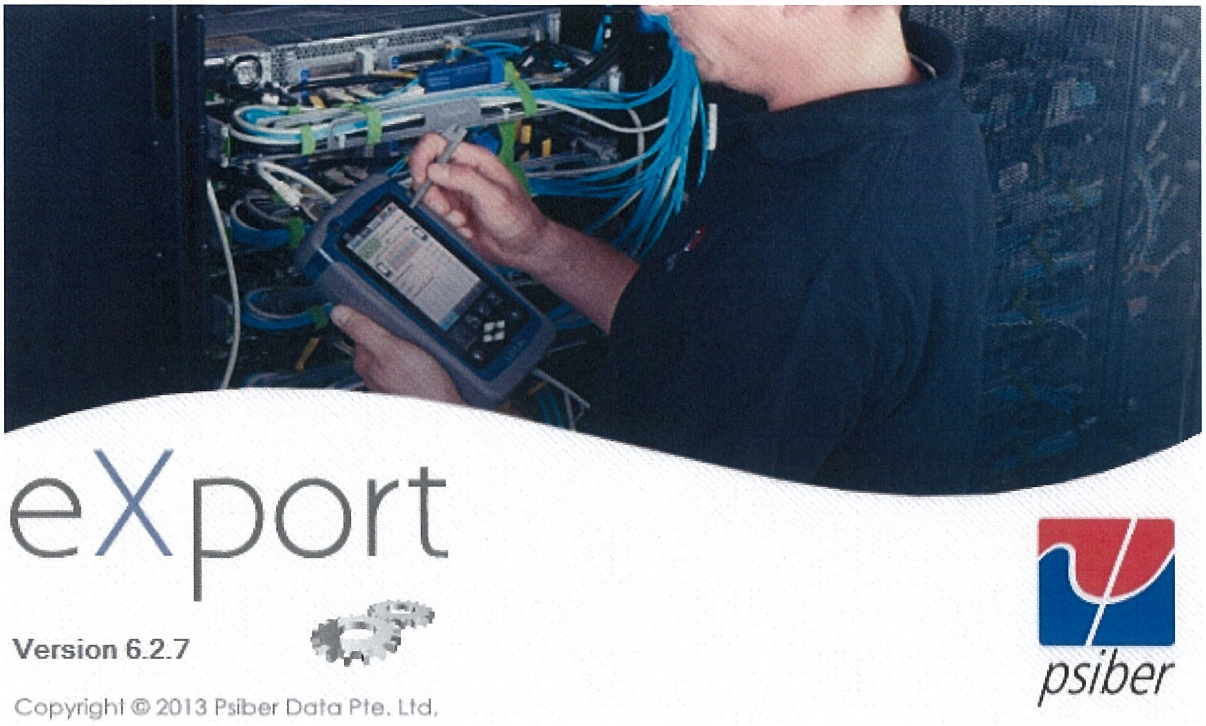
このマニュアルは eXport ソフトウェアの使用方法を記述しております。ワイヤーエキスパート本体については、測定器本体の取扱説明書をご参照ください。

プログラムの実行

1. デスクトップ上のショートカットアイコン“eXport”をダブルクリックするか、スタートメニュー＞Psiber Data Pte. Ltd > eXport に進み、eXport アイコンをクリックしてプログラムをスタートさせます。



2. プログラムが開始し、バージョン情報が表示されます。



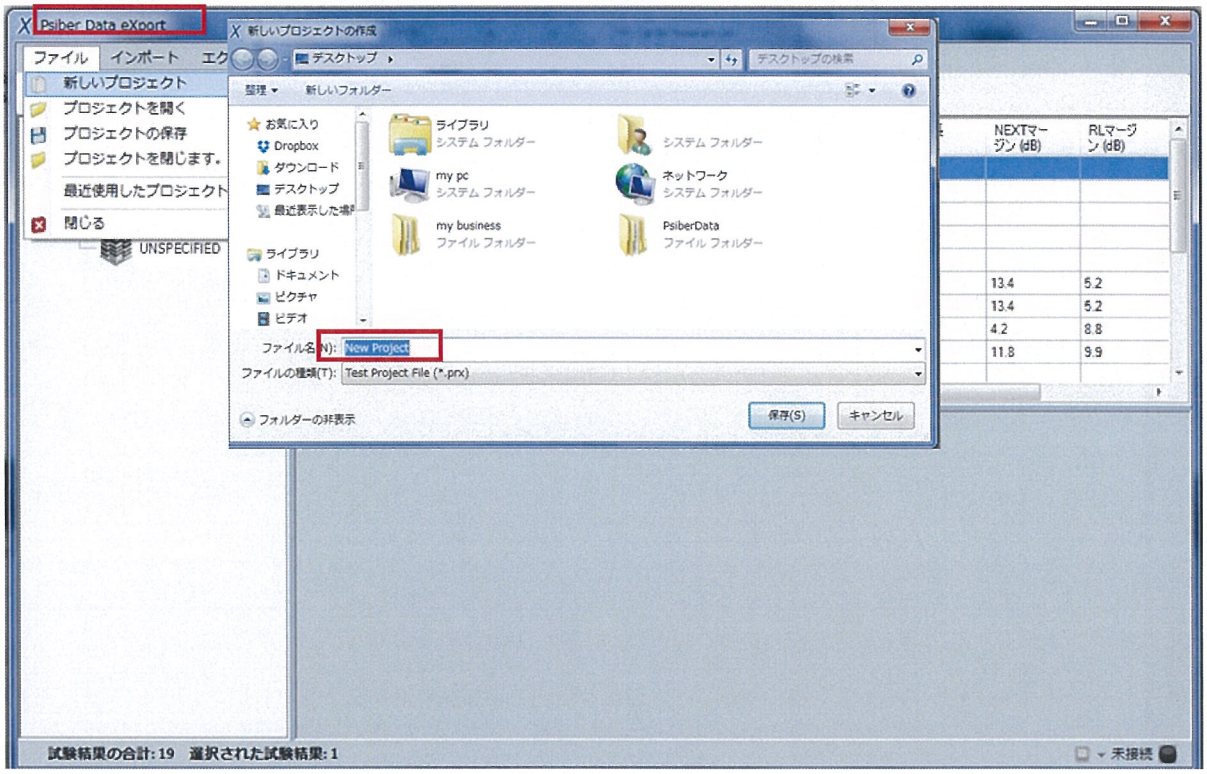
第2章 –プロジェクト管理

ファイル管理

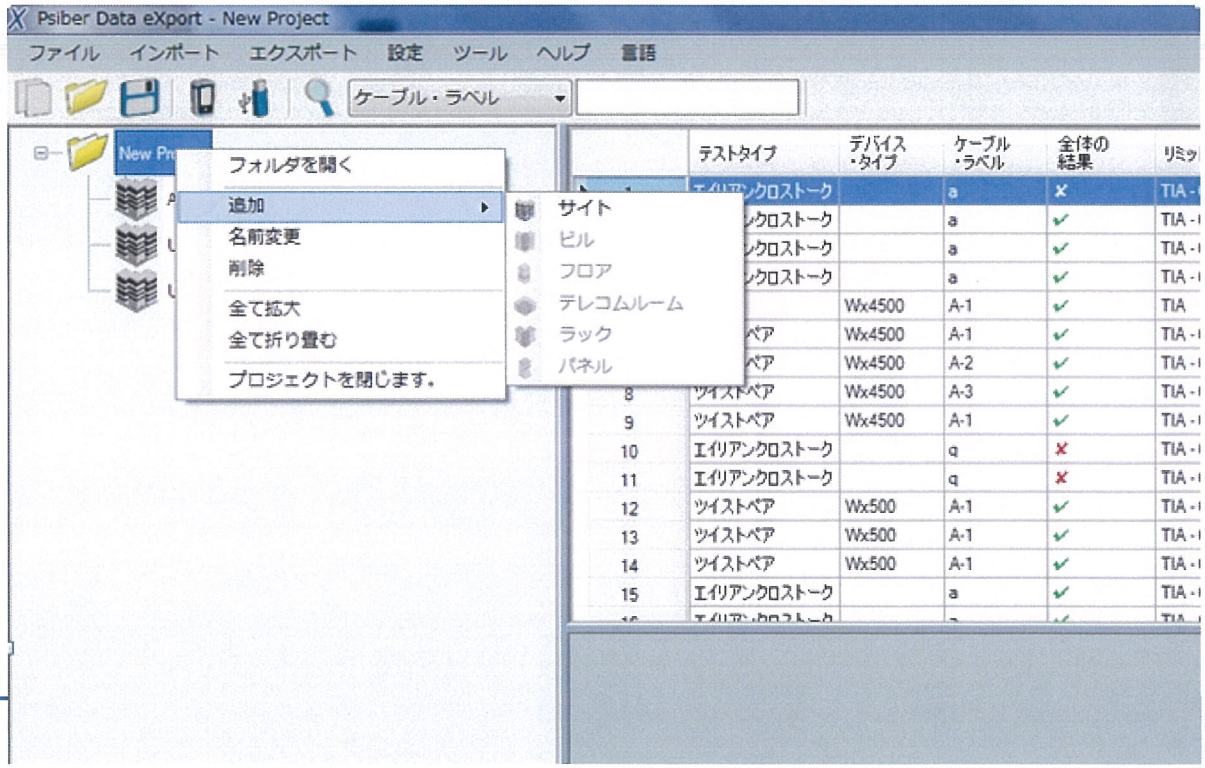
新規プロジェクトの作成

1. 新規プロジェクトを作成するため、ファイル＞新しいプロジェクトに進みます。

   もしくは、 “新しい” アイコンをクリックします。



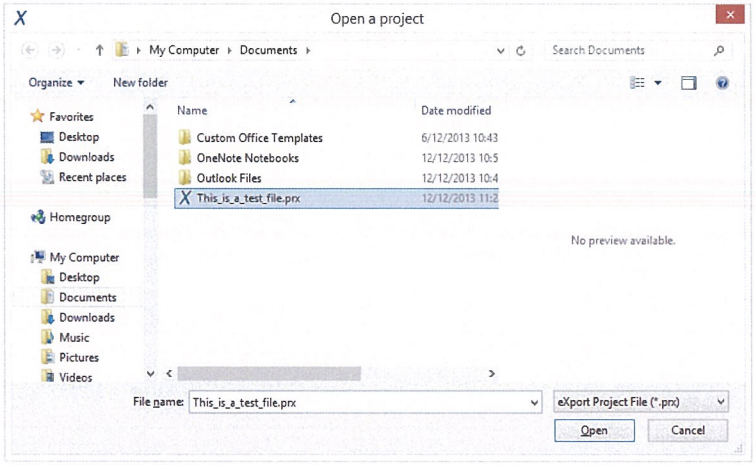
2. 作成した新しいプロジェクトをクリックします。



- フォルダを開く – 保存されたプロジェクトファイルを開く
- 追加（サブアイテムを階層の順番に加えていく）
  - ・サイト – 新しいサイトをプロジェクトに追加
  - ・ビル – 選択したサイトに新しいビルのサブアイテムを追加
  - ・フロア – 選択したビルに新しいフロアのサブアイテムを追加
  - ・テレコムルーム –選択したフロアに新しいルームのサブアイテムを追加
  - ・ラック – 選択したルームに新しいラックのサブアイテムを追加
  - ・パネル –選択したラックに新しいパネルのサブアイテムを追加
- 名前の変更 – 選択したアイテムの名前を変更します。
- 削除 –選択したアイテムを削除します。
- 全データの拡張もしくは縮小 –プロジェクトのアイテム・サブアイテムを拡張もしくは縮小する
- プロジェクトを閉じる –選択したプロジェクトを閉じる

既存プロジェクトを開く

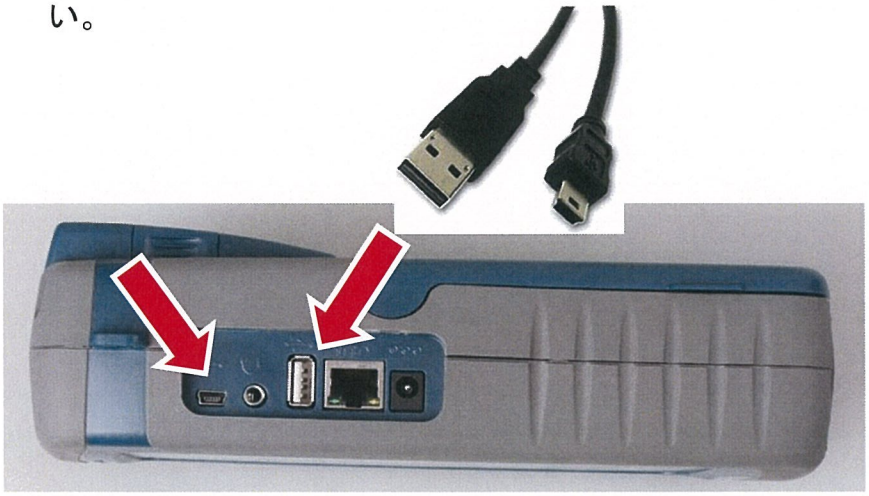
1. ファイルから開き、もしくは “オープン” アイコンをクリックして、既存プロジェクトを開きます。プロジェクトファイル(*.prx) を指定し、‘Open’ を押して先に進みます。



インポート

測定器から試験結果

1. USB ケーブルでワイヤーエキスパートが PC に接続されていることをご確認ください。

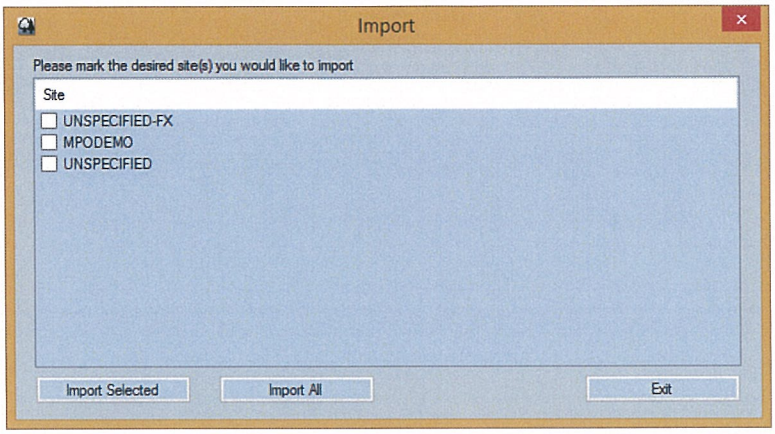


2. Microsoft Windows Mobile デバイスセンタをインストールしてください。
   'Accept' をクリックし、必要なドライバをインストールします。

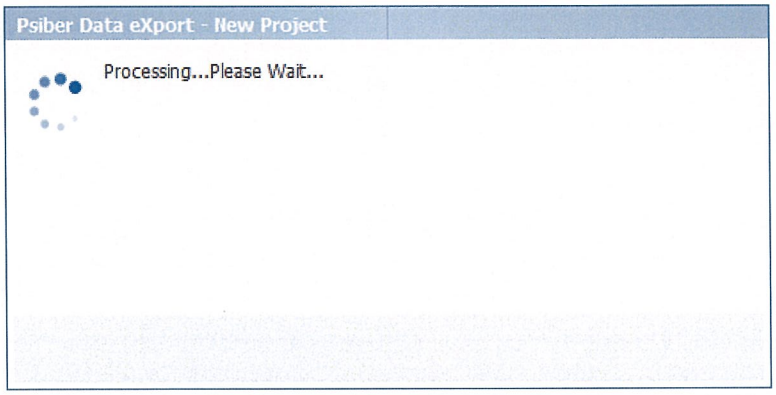
3. PC にデバイスを繋ぐとステータスバーが"Connected"を表示します。

4. インポート＞デバイスに進むか、 "デバイス" アイコンをクリックします。

5. インポートしたいテスト結果を選択し、‘Import Selected’ を押します。
‘Import All’ を押すと、すべてのテスト結果がインポートされます。



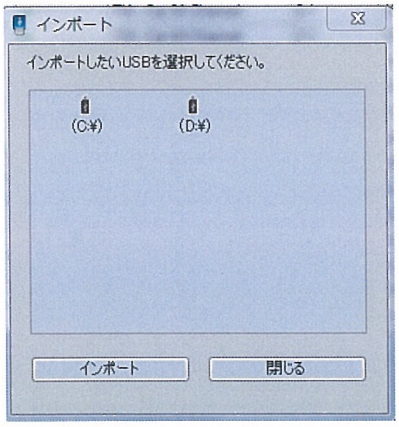
6. 保存結果の数量によって、インポートする時間がかかります。



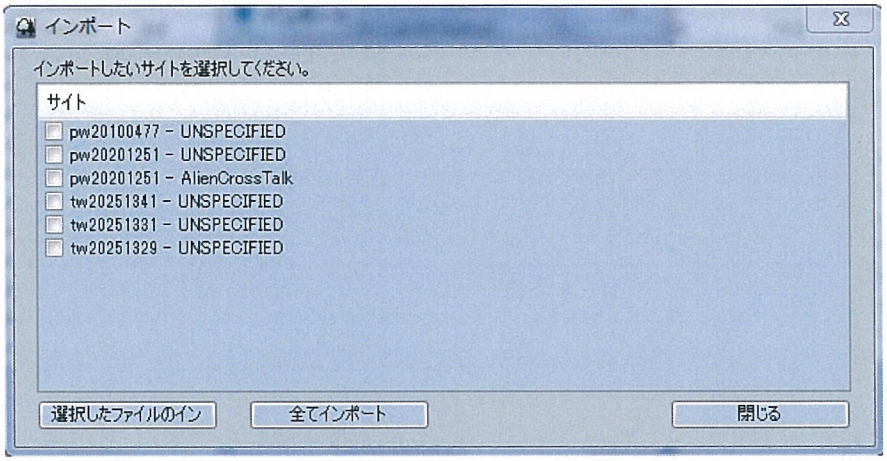
7. インポート中、ステータスバーが“移送中”の表示を出します。

USB フラッシュドライブからテスト結果

1. インポート＞デバイスにいくか、 “USB フラッシュドライブ” アイコンをクリックしてください。
2. テスト結果をインポートしたい USB を選択します。“インポート” をクリックしてくださ



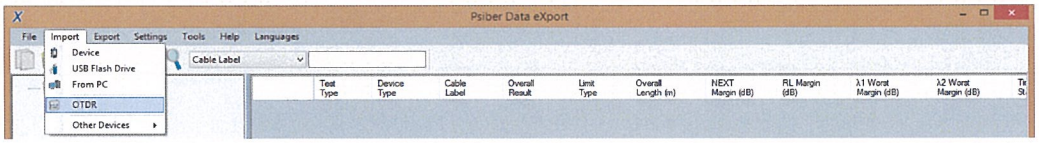
3. インポートするご希望サイトを選択するし “選択したファイルのインポート” をクリックするか、全サイトをインポートする“全てインポート”をクリックしてください。



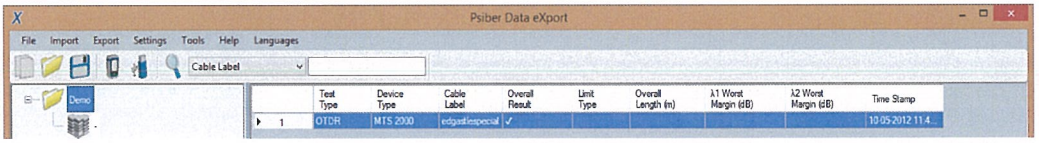
4. ステータスバーがインポート中の移送状況を表示します。

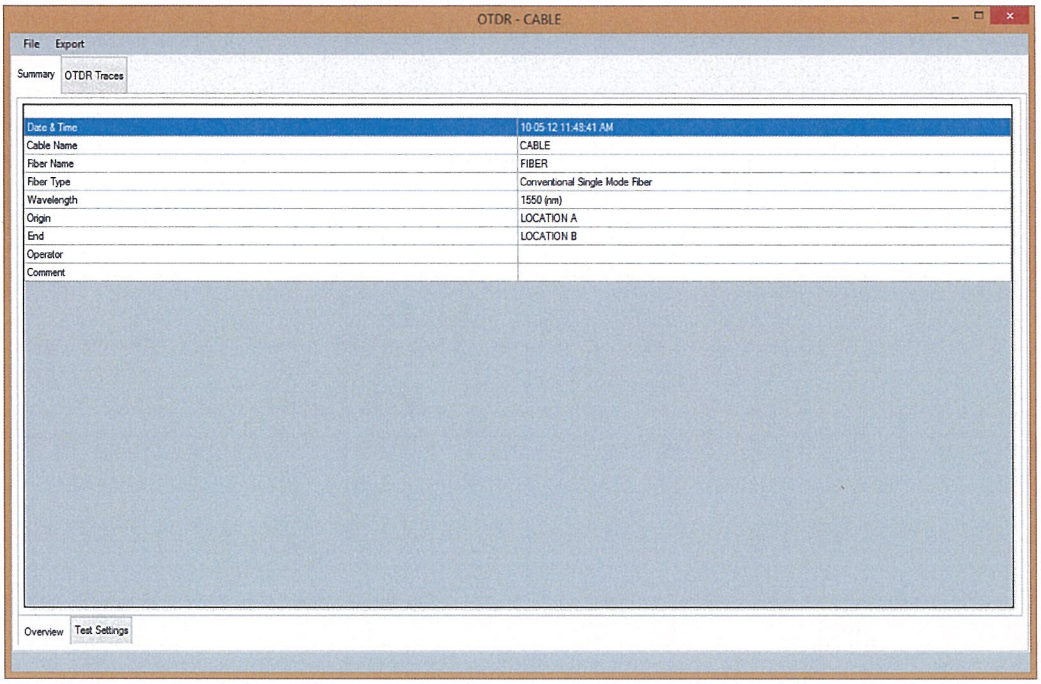
SOR ファイルから OTDR 試験結果

1. インポート > OTDR にいき、*.SOR files をインポートします。

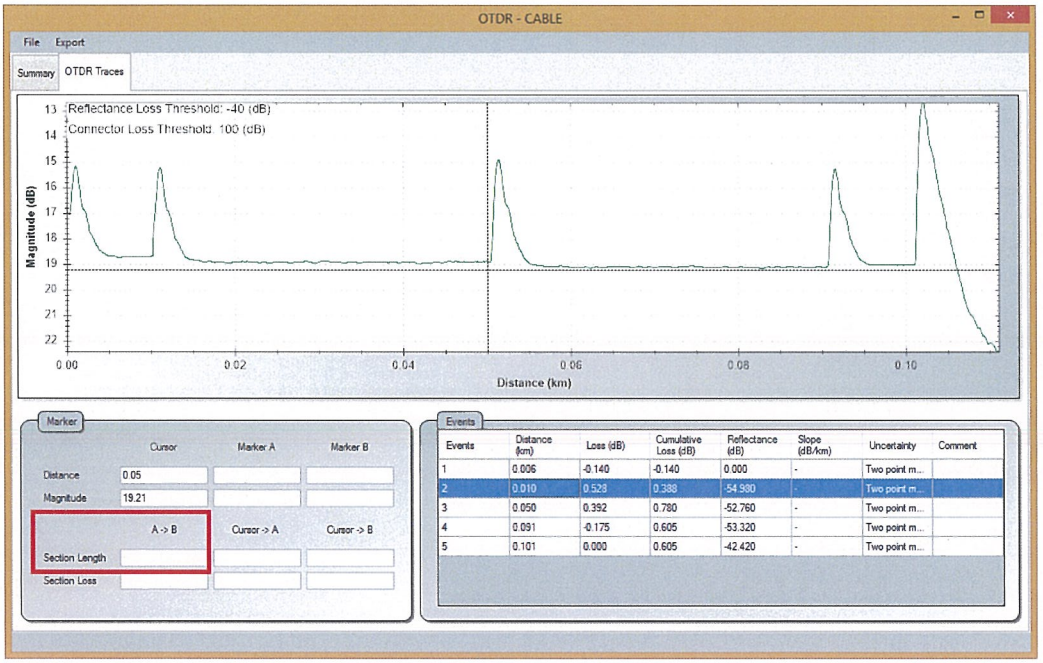


2. ファイルを指定し、“Open” をクリックしてインポートを開始します。
3. テスト結果をダブルクリックし、テスト結果の詳細を閲覧します。



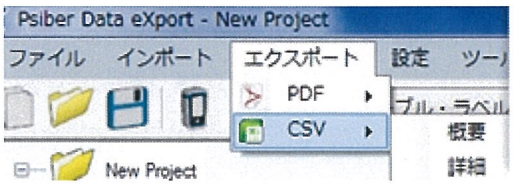


4. “OTDR トレース上のカーソルを動かして距離を表示させてください。



テスト結果をエクスポート

1. エクスポート＞PDF にいき、PDF 形式の選択したテスト結果をエクスポートします。



エクスポート＞CSV にいき、選択したテストレポートを CSV 形式で出力します。

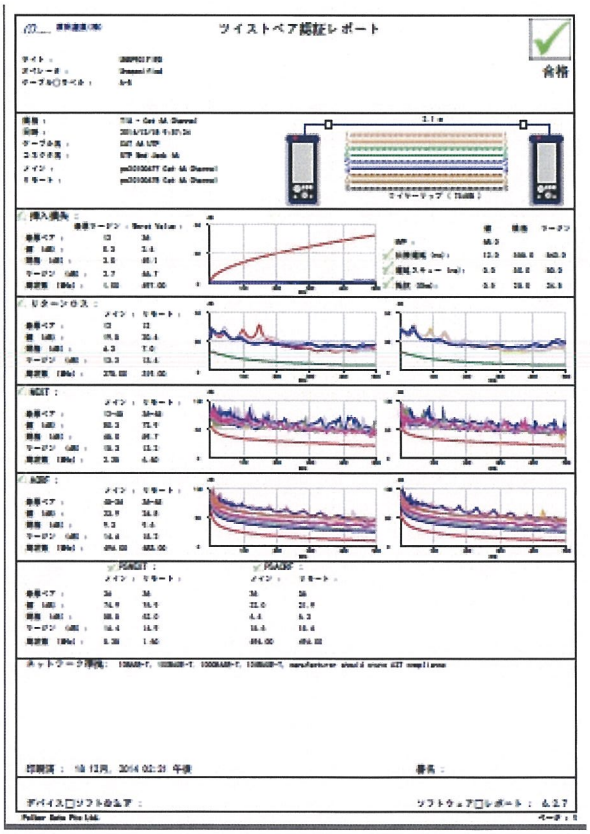
- 概要 – Generates 基本情報のみリスト化されたサマリーレポート。一般的に全プロジェクトを表にしています。

原田産業(株)

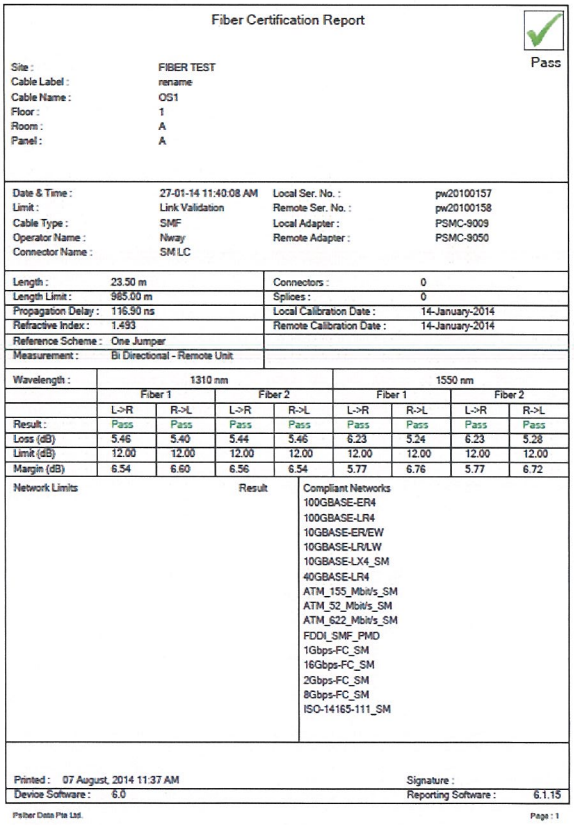
サマリーレポート

ケーブル□ラベル	結果	長さ (m)	NEXTマージン (dB)	規格	日時
A-1	✓	4.4	13.4	TIA - Cat 5e Permanent Link	2014/09/11 11:17:31
A-2	✓	4.4	13.4	TIA - Cat 5e Permanent Link	2014/09/11 11:18:23
A-3	✓	3.8	4.2	TIA - Cat 6A Permanent Link	2014/09/18 10:43:31
A-1	✓	1.1	11.8	TIA - Cat 6A Channel	2014/11/19 13:10:17
A-1	✓	2.1	13.6	TIA - Cat 6A Channel	2014/12/09 13:00:28
A-2	✓	2.1	12.3	TIA - Cat 6A Channel	2014/12/10 13:11:38

- 詳細 – 各ポイントでのテストパラメータ、プロット、テスト設定、デバイス情報で構成されたテスト結果を作成します。



一般的なメタルケーブル認証レポート（詳細）



Fiber Certification Report

Pass

Site :	FIBER TEST		
Cable Label :	rename		
Cable Name :	OS1		
Floor :	1		
Room :	A		
Panel :	A		
Date & Time :	27-01-14 11:40:08 AM	Local Ser. No. :	pw20100157
Limit :	Link Validation	Remote Ser. No. :	pw20100158
Cable Type :	SMF	Local Adapter :	PSMC-9009
Operator Name :	Nway	Remote Adapter :	PSMC-9050
Connector Name :	SM LC		
Length :	23.50 m	Connectors :	0
Length Limit :	985.00 m	Splices :	0
Propagation Delay :	116.90 ns	Local Calibration Date :	14-January-2014
Refractive Index :	1.493	Remote Calibration Date :	14-January-2014
Reference Scheme :	One Jumper		
Measurement :	Bi Directional - Remote Unit		

Wavelength :	1310 nm				1550 nm			
	Fiber 1		Fiber 2		Fiber 1		Fiber 2	
	L->R	R->L	L->R	R->L	L->R	R->L	L->R	R->L
Result :	Pass	Pass	Pass	Pass	Pass	Pass	Pass	Pass
Loss (dB)	5.46	5.40	5.44	5.46	6.23	5.24	6.23	5.28
Limit (dB)	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00
Margin (dB)	6.54	6.60	6.56	6.54	5.77	6.76	5.77	6.72

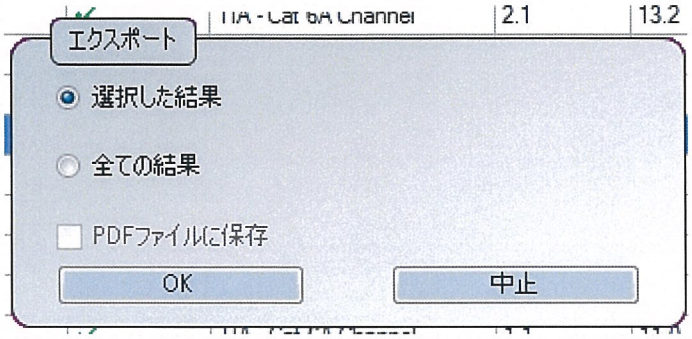
Network Limits	Result	Compliant Networks
		100GBASE-ER4
		100GBASE-LR4
		10GBASE-ER/EW
		10GBASE-LR/LW
		10GBASE-LX4_SM
		40GBASE-LR4
		ATM_155_Mbit/s_SM
		ATM_52_Mbit/s_SM
		ATM_622_Mbit/s_SM
		FDDI_SMF_PMD
		1Gbps-FC_SM
		16Gbps-FC_SM
		2Gbps-FC_SM
		8Gbps-FC_SM
		ISO-14165-111_SM

Printed :	07 August, 2014 11:37 AM	Signature :	
Device Software :	6.0	Reporting Software :	6.1.15

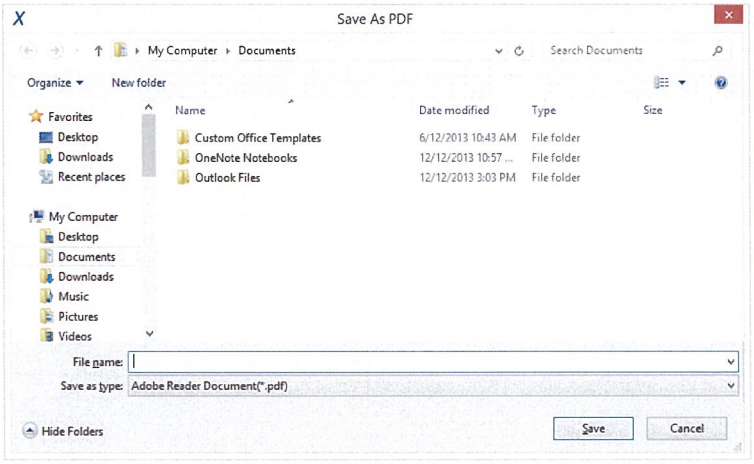
Psiber Data Pte Ltd. Page : 1

一般的なファイバ認証レポート（認証）

2. “選択した結果”でご希望の結果のみを選択するか、“すべての結果” でロードされている全結果を選びます。‘OK’ をクリックして次に進みます。



3. PDF か CSV ファイルの保存先を選択し、名前を付けて保存を押します。

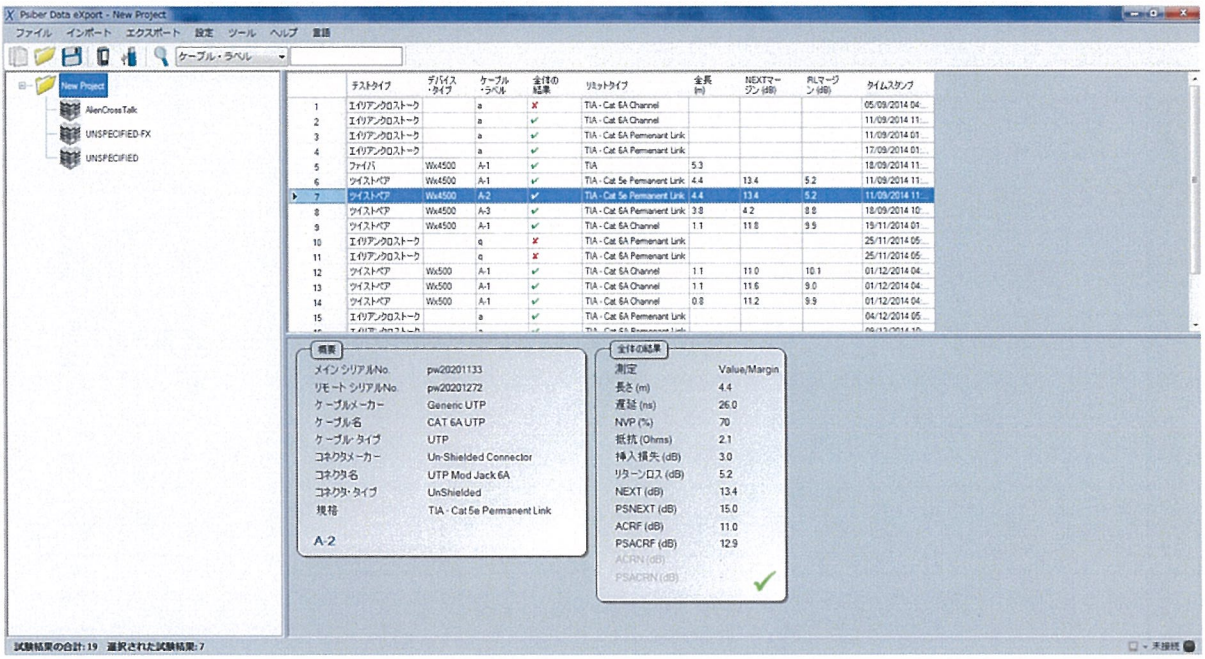


備考：Labオプションで保存フェイズオプションが可能な場合、フェイズ情報のためにプロットを作る際、エクスポートされた CSV ファイルが使えます。

第3章: データ管理

テスト結果を閲覧

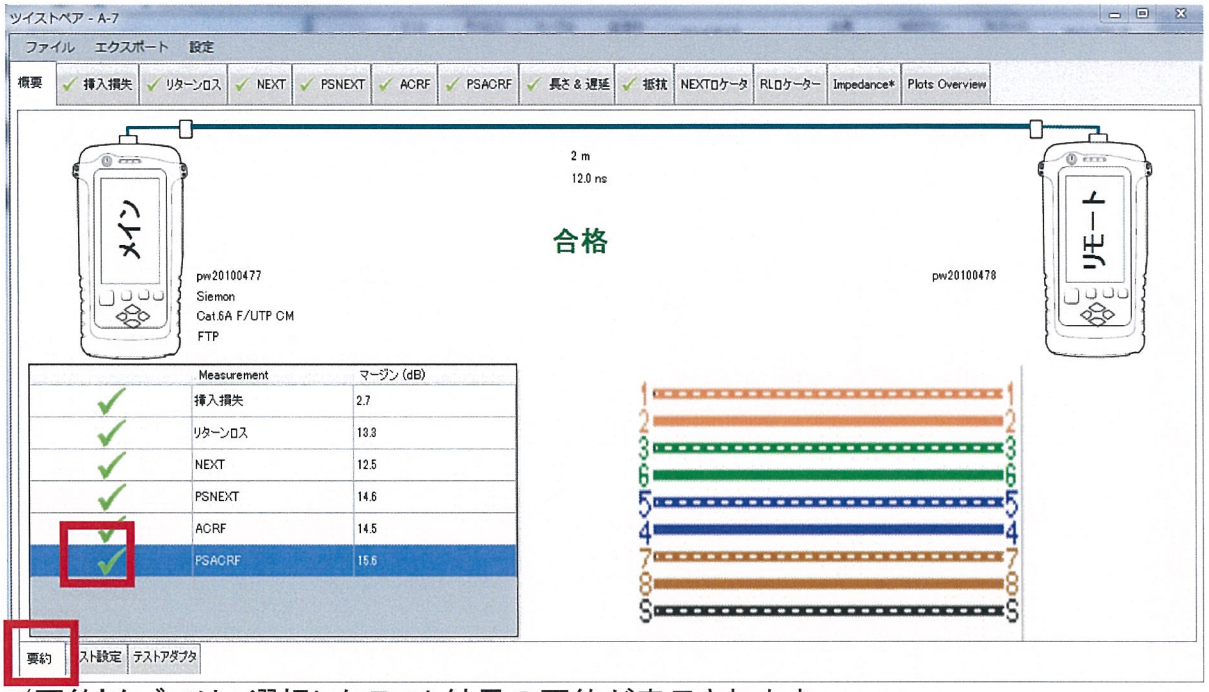
1. テスト結果をインポート後、要約したデータが表示されます。すべてのテスト結果を表示するため、プロジェクト名をクリックします。サイト名をクリックし、サイト内に保存されたテスト結果を表示します。



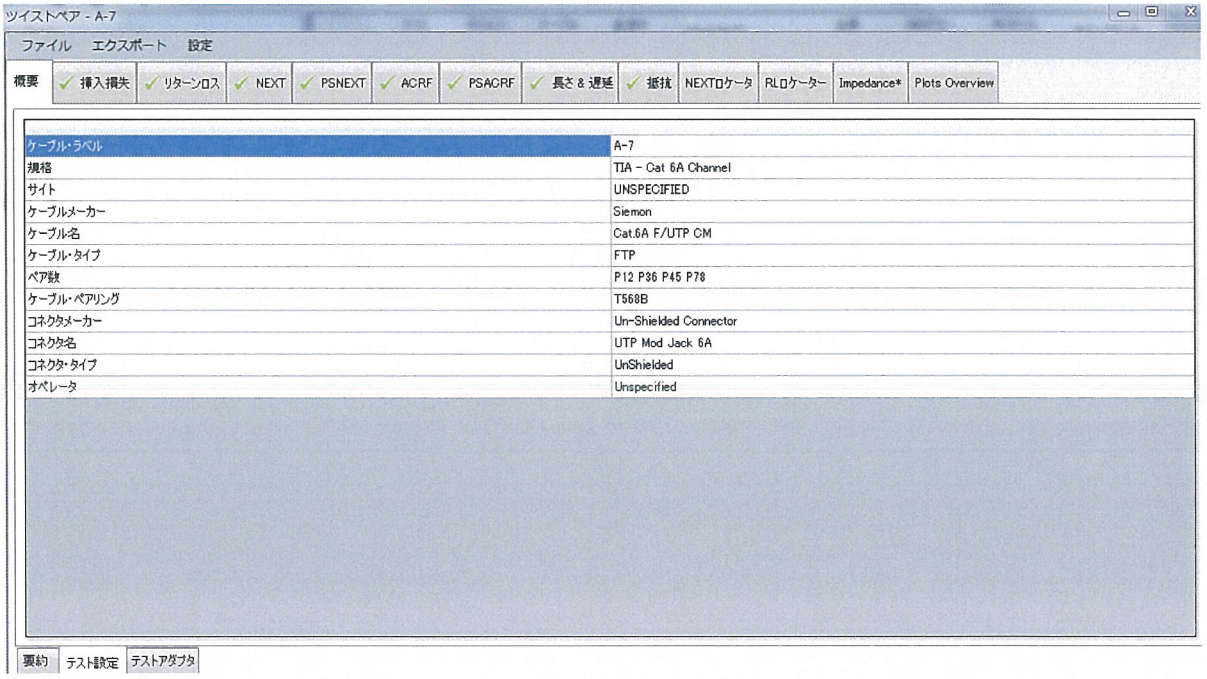
用例

✓ *Pass* ✓* *Marginal Pass* ✗ *Fail* ✗* *Marginal Fail*

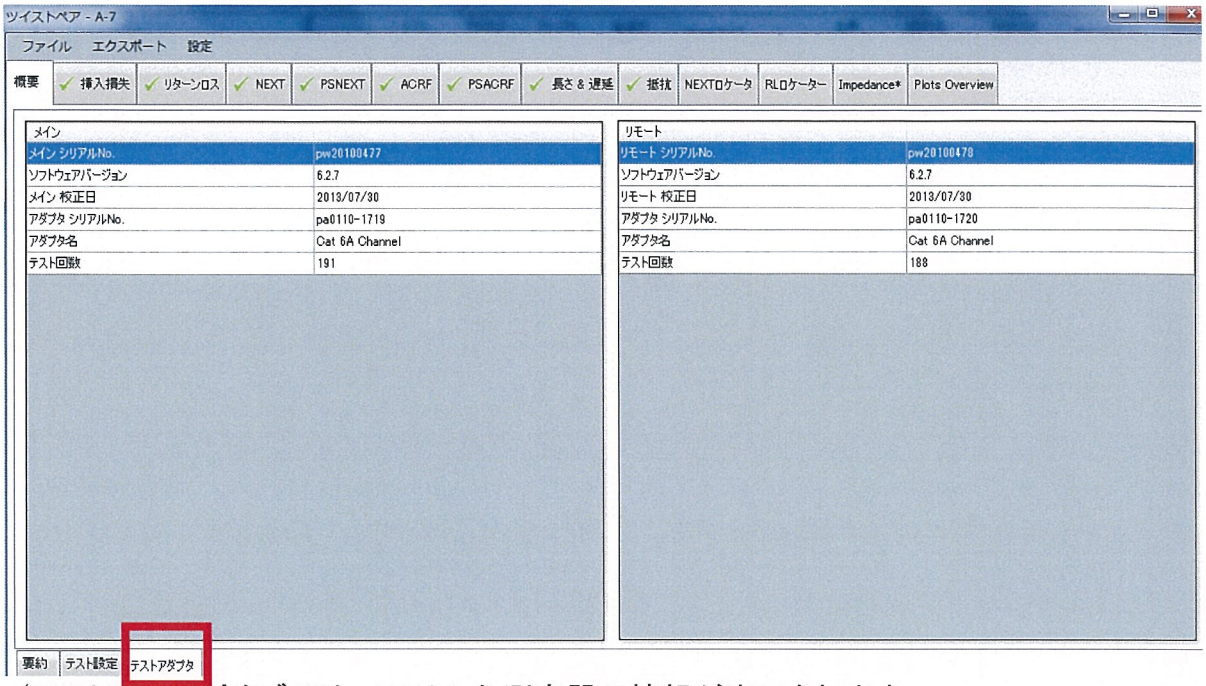
2. テスト結果の詳細を知りたい場合は、VIEW をダブルクリックしてください。



‘要約’タブでは、選択したテスト結果の要約が表示されます。

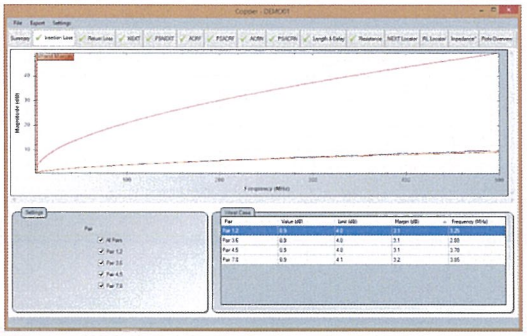


3. ‘テスト設定’タブ では、選択したテスト結果で使用されている測定器の構成が表示されます。

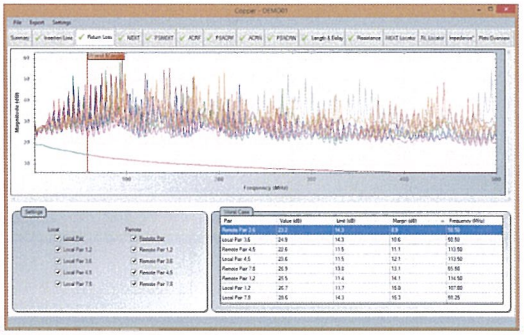


'テストアダプタ' タブでは、テストした測定器の情報が表示されます。

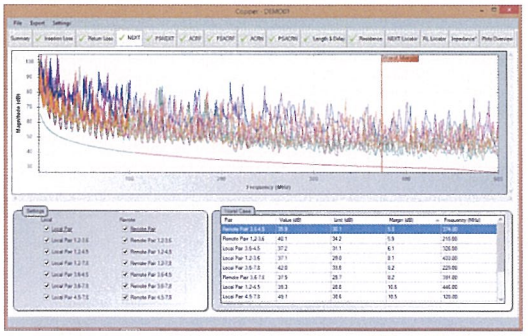
4. 各項目のタブをクリックすると、プロット、最悪マージンや他の詳細情報が表示されます。プロット上でマウスのスクロールを使うと、テスト結果のズームイン・アウトが出来、右クリックでプロットのオプション情報が閲覧できます。



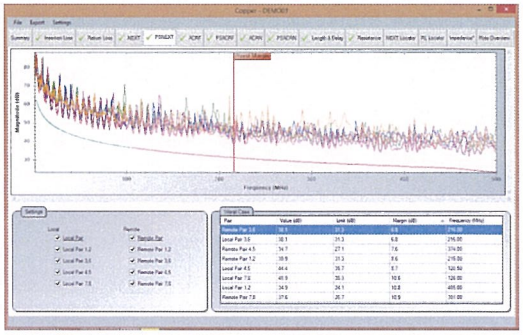
挿入損失



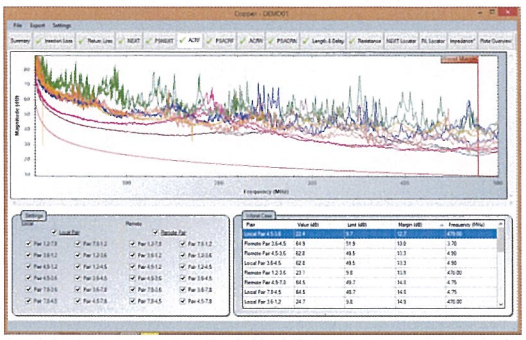
リターンロス



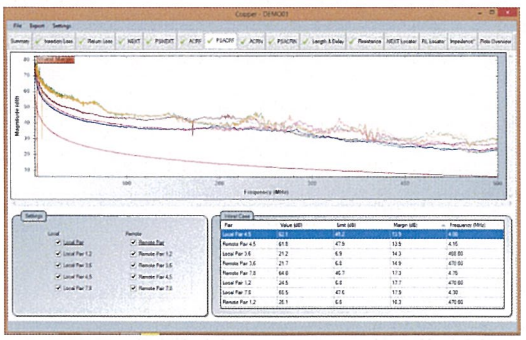
NEXT



PSNEXT

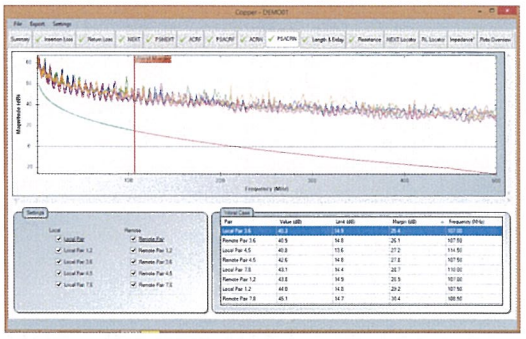


ACRF

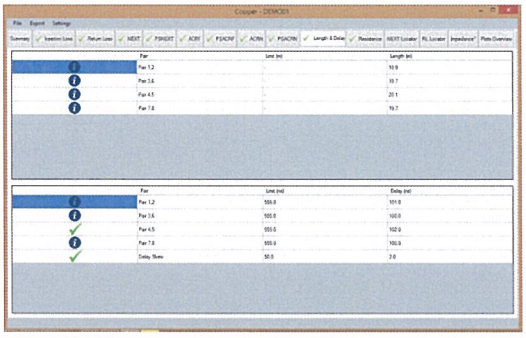


PSACRF

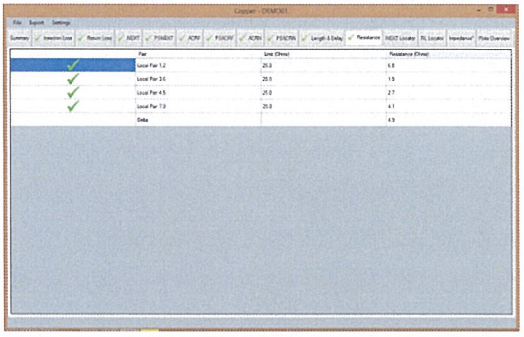
ACRN (ISO 限定)



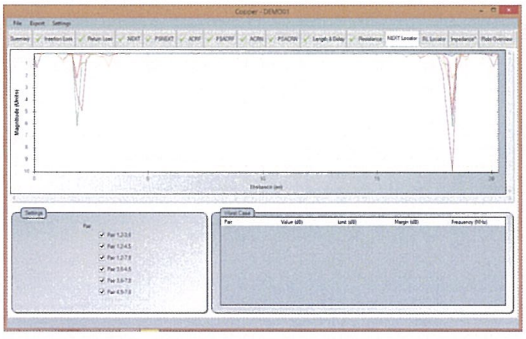
PSACRN (ISO 限定)



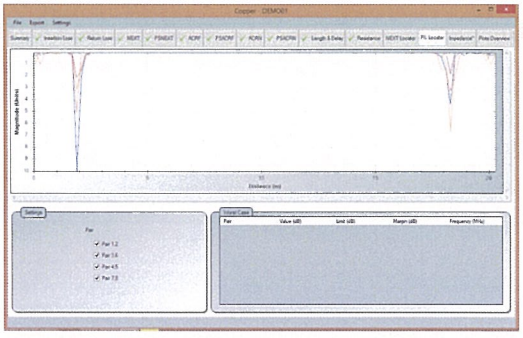
長さ&遅延



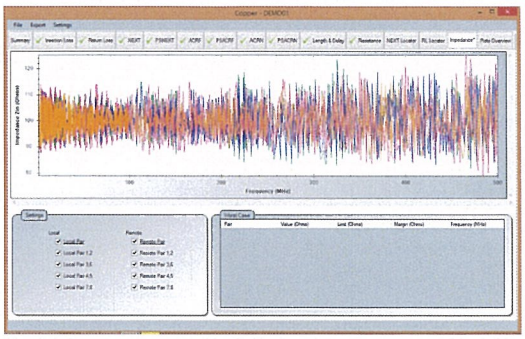
抵抗



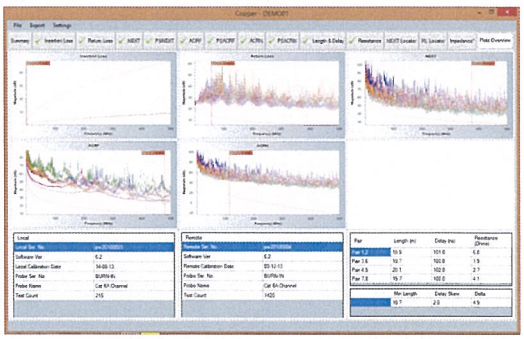
NEXT ロケータ



リターンロス ロケータ



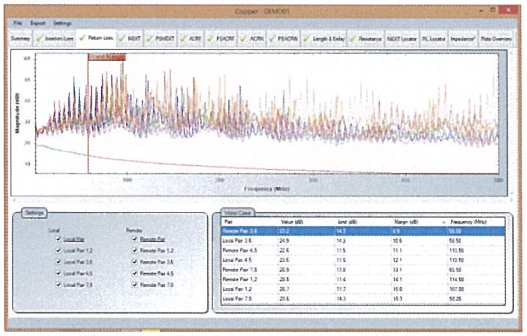
Impedence



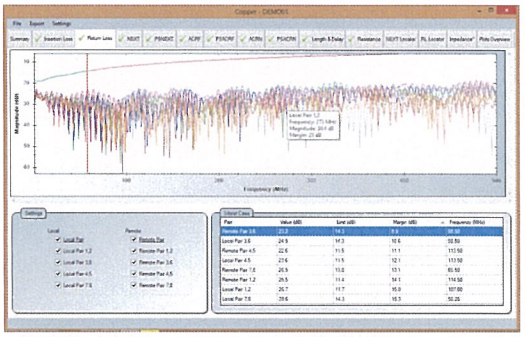
プロット概要

Y 軸の反転

1. 設定＞ Y 軸方向＞反転を押して下さい



初期設定チャート

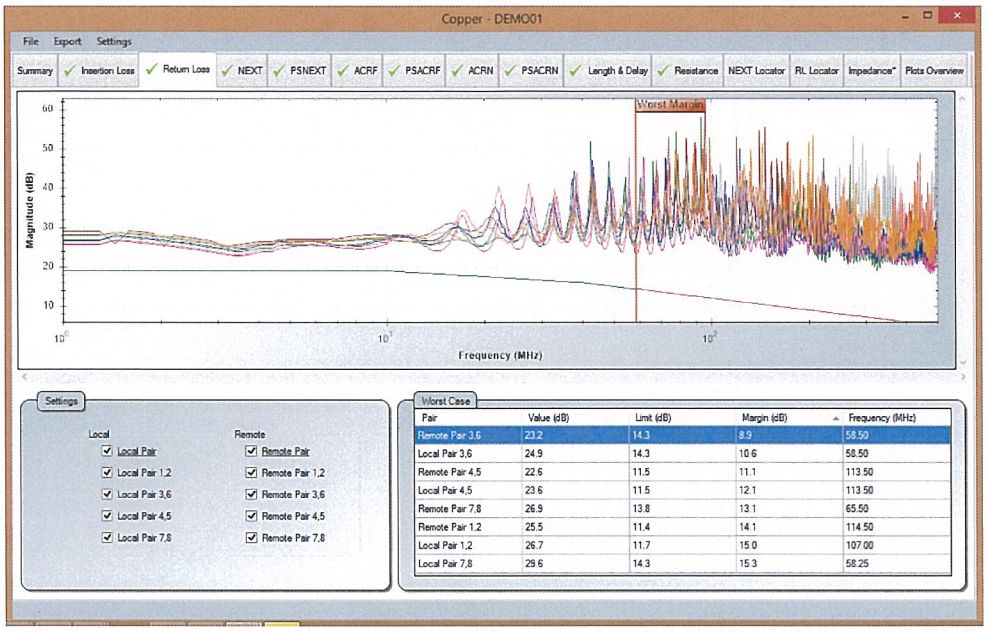


反転チャート

リニア & 対数

1. 設定＞X 軸方向＞リニア –初期設定

＞対数

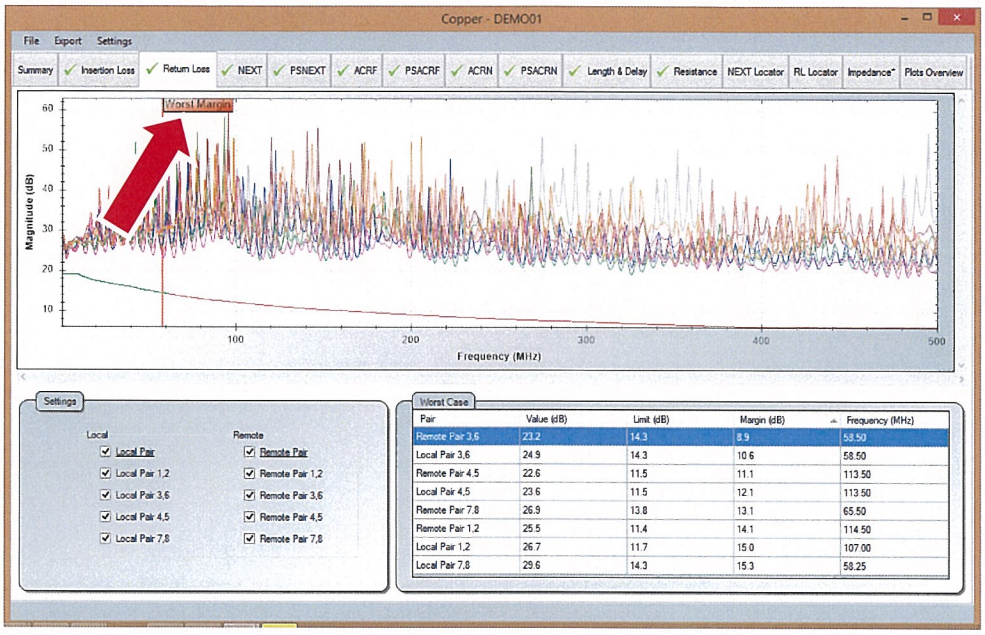


マーカー

1. 設定＞マーカー

   ＞イーサネット規格 – マーカーが追加され、各種イーサネット規格の周波数が表示されます。

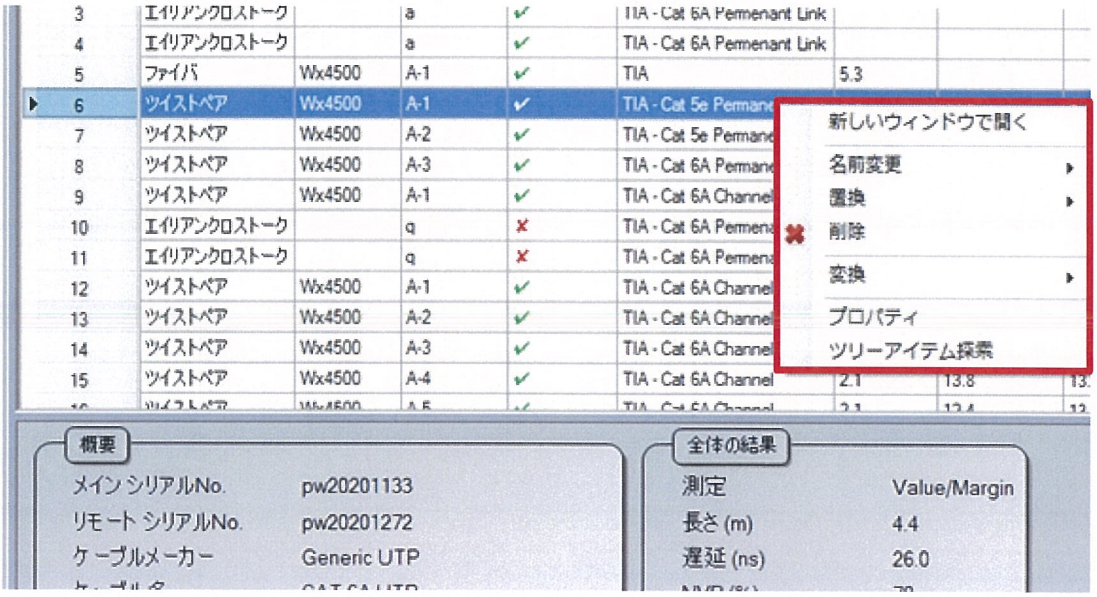
> 最悪マージン –初期設定

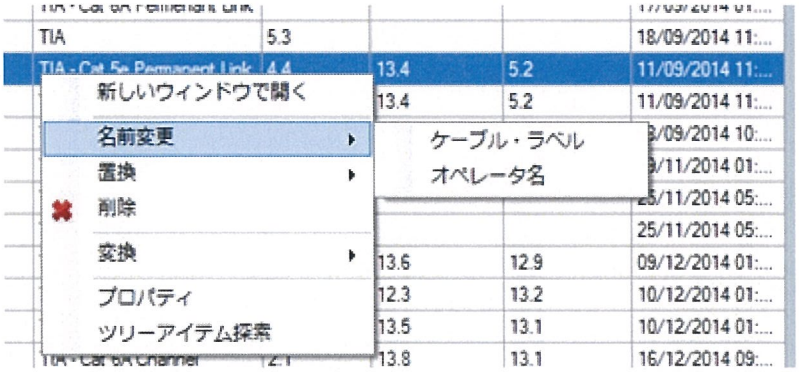


情報の編集

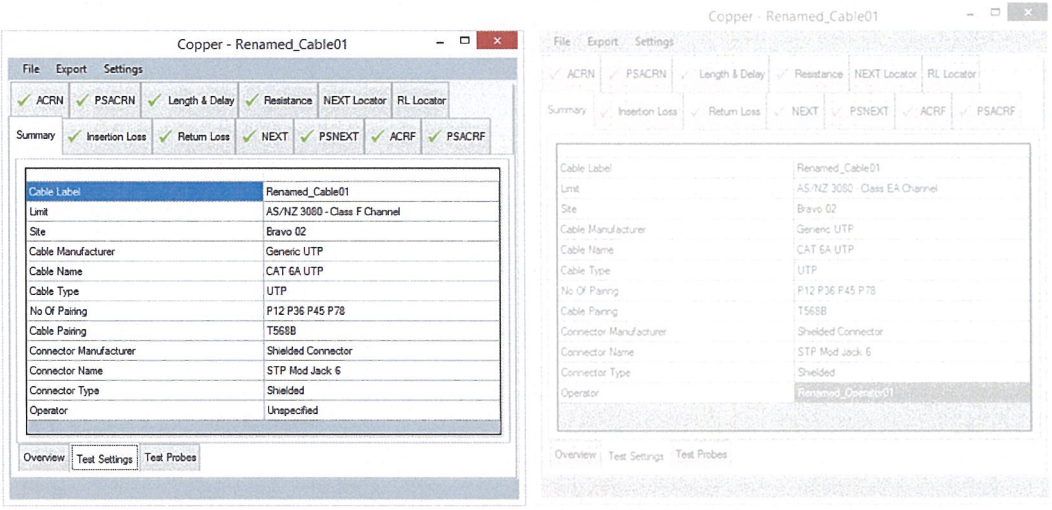
1. テスト結果の右側にある選択スクリーンで右クリックします。
2. 名前変更＞ケーブル・ラベルで、選択したケーブルの名前を変更します。

   名前変更＞オペレータ名で、選択したオペレータ名を変更します。



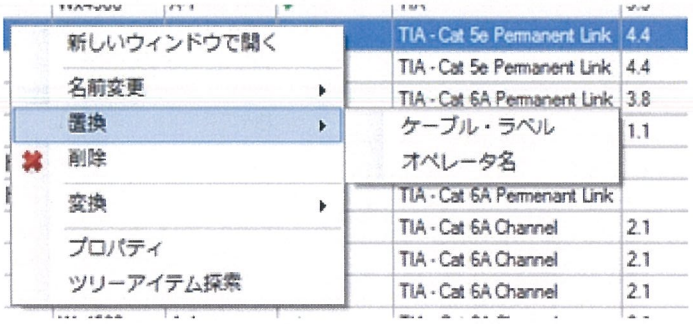


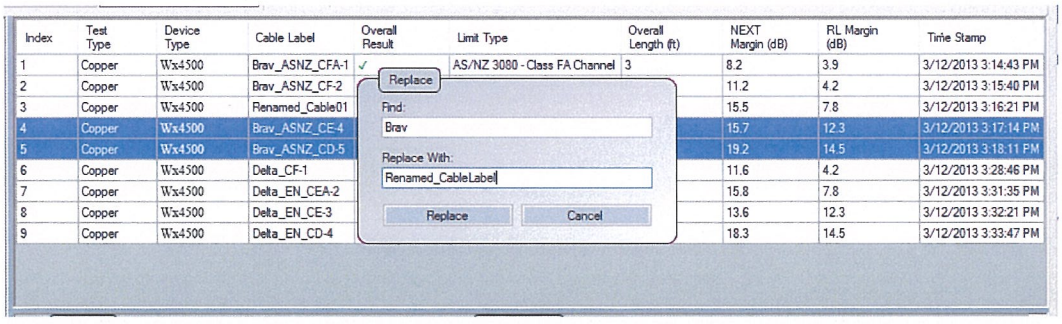
名前変更したケーブル・ラベル／オペレータ名は詳細結果のテスト設定タブでも反映されています。

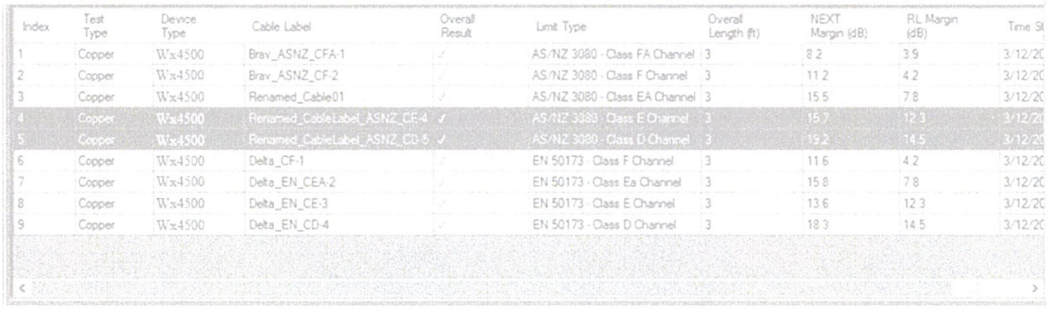


3. 置換＞ケーブル・ラベルで、選択結果の置き換えするラベルを検索します。

置換＞オペレータ名で、選択結果の置き換えする名前を検索します。



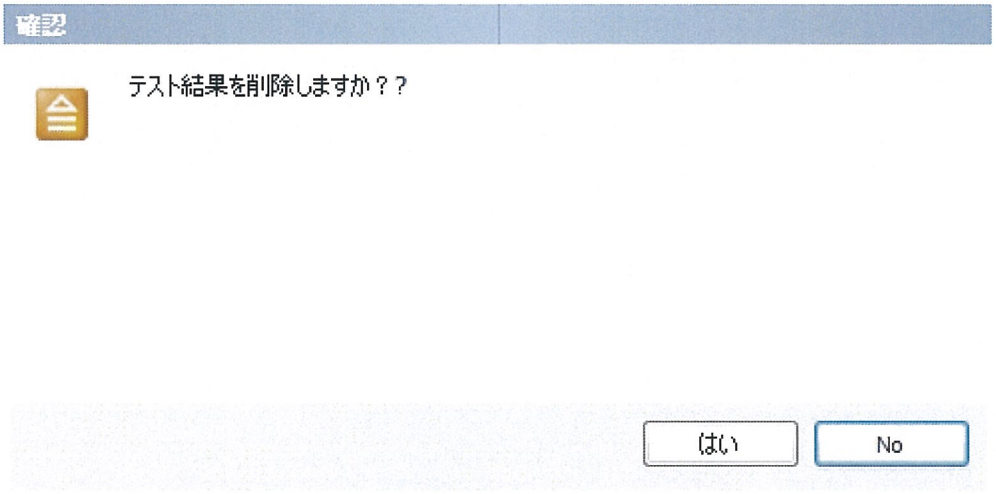




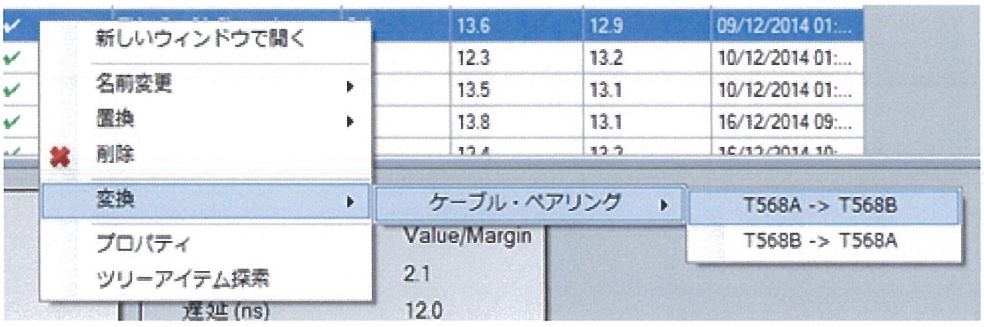
Index	Test Type	Device Type	Cable Label	Overall Result	Limit Type	Overall Length (ft)	NEXT Margin (dB)	RL Margin (dB)	Time St
1	Copper	Wx4500	Brav_ASNZ_CFA-1	✓	AS/NZ 3080 - Class FA Channel	3	8.2	3.9	3/12/20
2	Copper	Wx4500	Brav_ASNZ_CF-2	✓	AS/NZ 3080 - Class F Channel	3	11.2	4.2	3/12/20
3	Copper	Wx4500	Renamed_Cable01	✓	AS/NZ 3080 - Class EA Channel	3	15.5	7.8	3/12/20
4	Copper	Wx4500	Renamed_CableLabel_ASNZ_CE-4	✓	AS/NZ 3080 - Class E Channel	3	15.7	12.3	3/12/20
5	Copper	Wx4500	Renamed_CableLabel_ASNZ_CD-5	✓	AS/NZ 3080 - Class D Channel	3	19.2	14.5	3/12/20
6	Copper	Wx4500	Delta_CF-1	✓	EN 50173 - Class F Channel	3	11.6	4.2	3/12/20
7	Copper	Wx4500	Delta_EN_CEA-2	✓	EN 50173 - Class Ea Channel	3	15.8	7.8	3/12/20
8	Copper	Wx4500	Delta_EN_CE-3	✓	EN 50173 - Class E Channel	3	13.6	12.3	3/12/20
9	Copper	Wx4500	Delta_EN_CD-4	✓	EN 50173 - Class D Channel	3	18.3	14.5	3/12/20

置換したケーブル・ラベル／オペレータ名は詳細結果の 'テスト設定' にも反映されます。

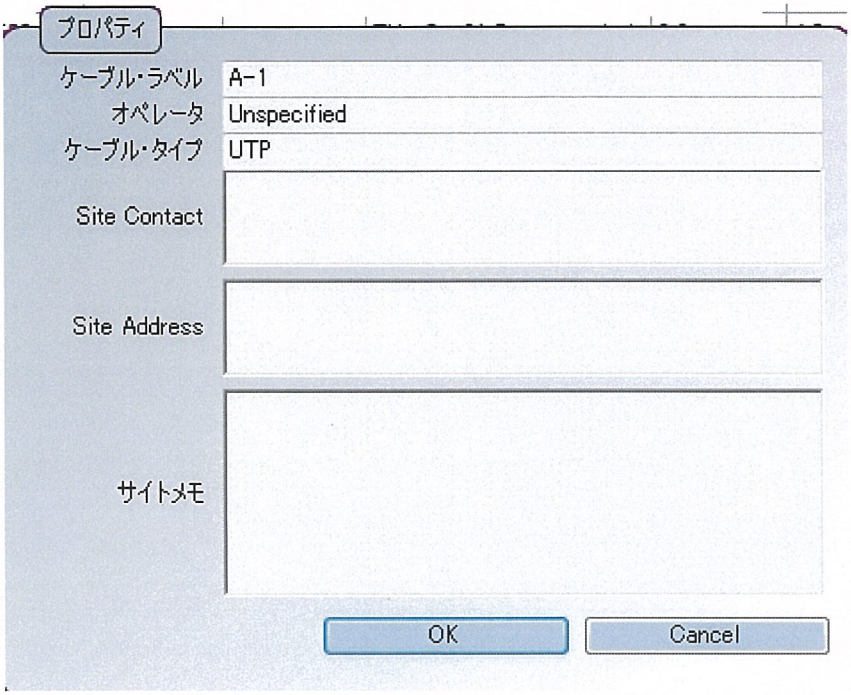
4. テスト結果を削除する場合、'Yes' を押してください。



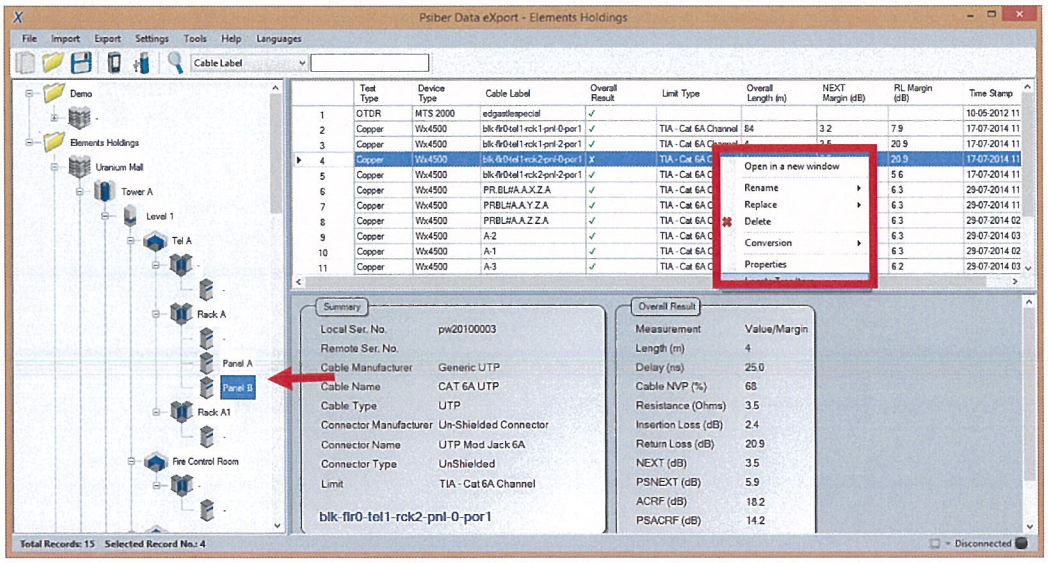
5. 変換＞ケーブル・ペアリングを押し、T568A から T568B への変更、もしくは T568B から T568A への変更ができます。初期設定は T568B ケーブル・ペアリングです。



6. プロパティを開き、選択結果にある編集可能な情報を閲覧します。

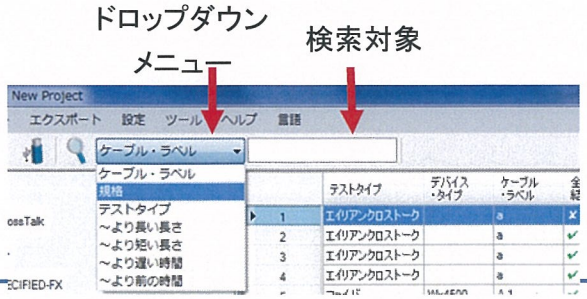


7. 指定するツリーアイテムにいき、選択したケーブルラベルがプロジェクト階層ツリーにある場所を探します。



データの検索

1. ドロップダウンメニューから検索の種類を選び、検索対象から検索する数値を入力するか、追加検索オプションから検索します。



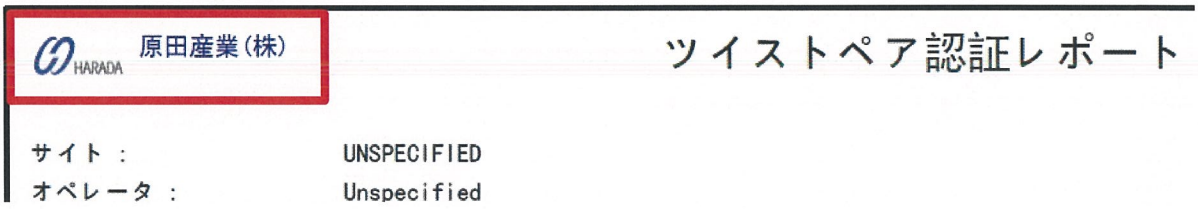
2. 'Enter' を押すか、 左にある 'Search' アイコンをクリックして検索を開始します。

第4章:設定の変更

テスト結果の設定変更

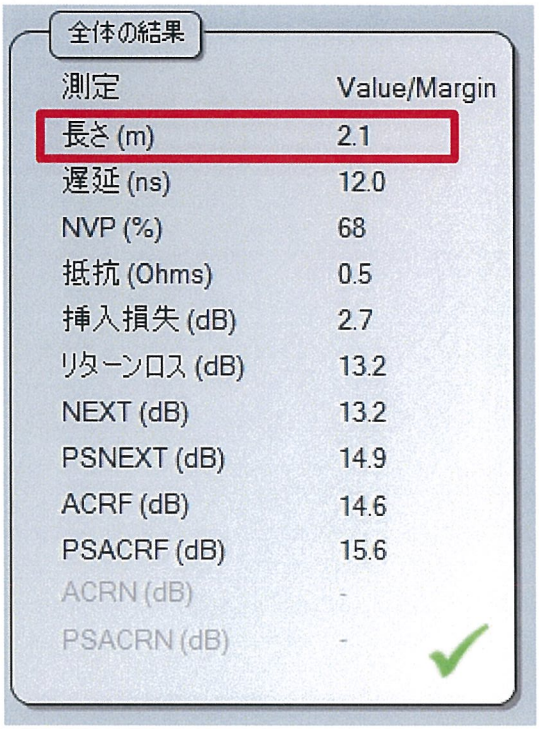
1. 設定＞会社詳細にいき、テスト結果に貴社ロゴと貴社名を記載します。
2. 会社名を入力し、ブラウズの空欄をクリックしてロゴイメージを選択します。OK をクリックして保存します。

3. エクスポートされたテスト結果の左上に、貴社名とロゴが表示されます。



長さ単位の選択

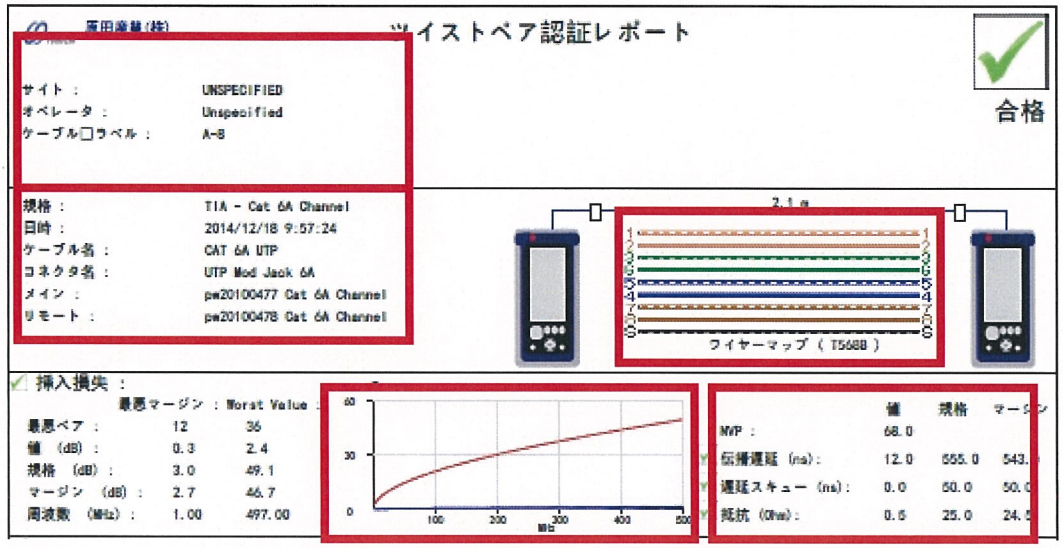
1. 設定＞長さ単位にいき、テスト結果の長さ表示で、メートルにするかフィートにするかを選択します。



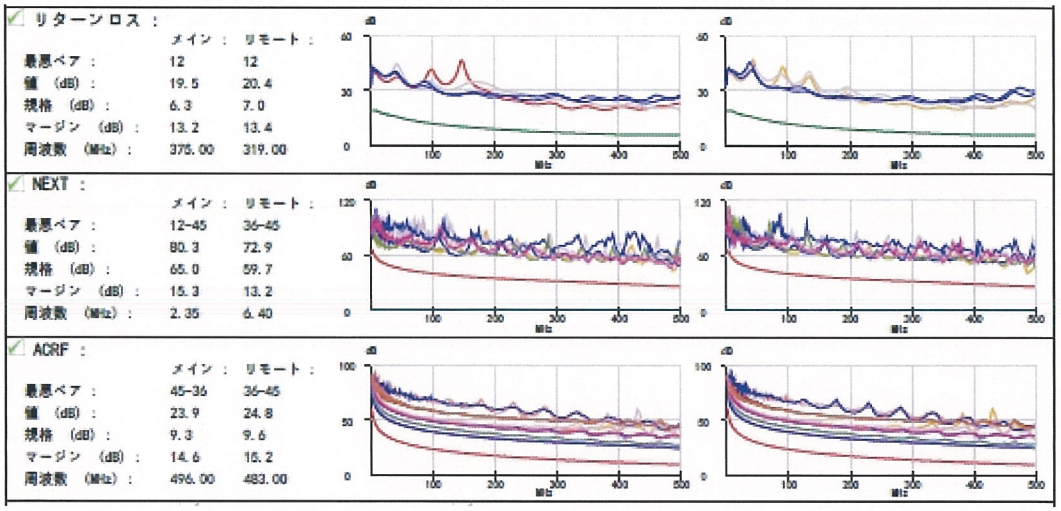
・レポート形式の選択

1. 設定＞レポート形式にいき、レポートの形式を選びます。

   校正日（初期設定）- ワイヤーエキスパート WX シリーズの最新校正日時がレポートに表示されます。



2. Y 軸の反転 – 全テスト結果にて、反転した Y 軸でのチャートが作成されます。

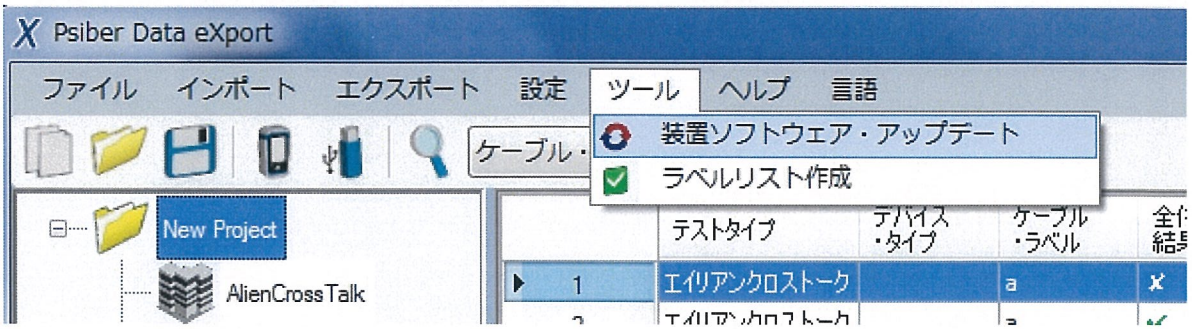


3.プロット -PDF レポートを作成する際に、解像度を高くするか、低くしてファイルサイズを圧縮するかを選びます。

第5章:オプション

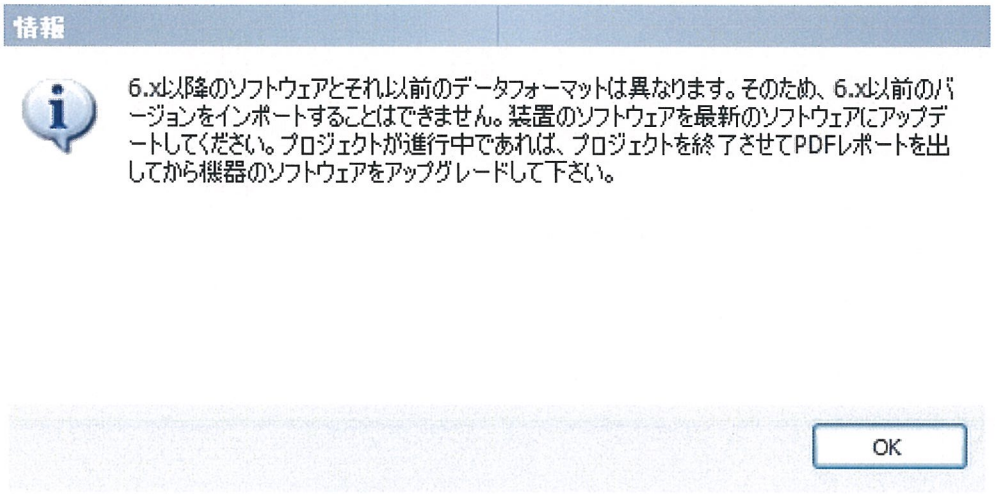
装置ソフトウェアのアップデート

1. ツールから「装置ソフトウェア・アップデート」を選択してください。

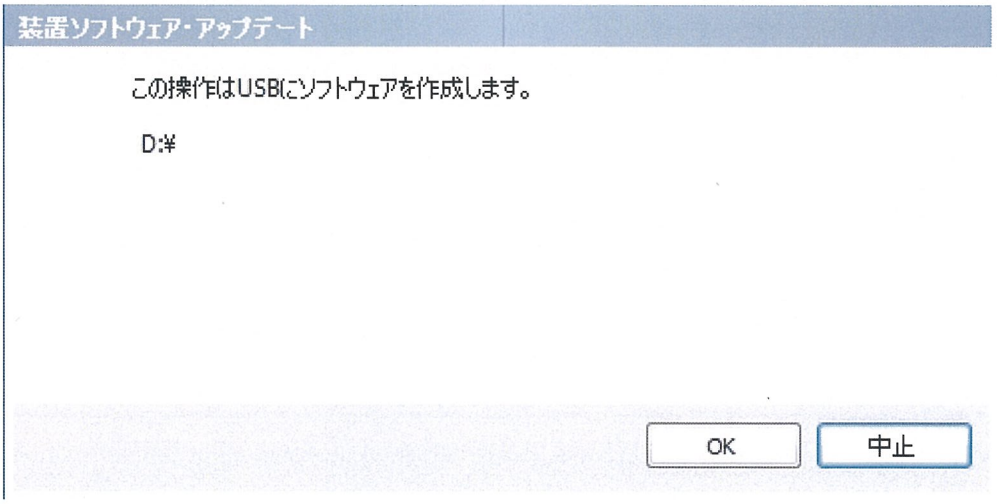


2. アップデートを開始する前に、USB フラッシュドライブが作業される PC 等にきちんと接続されているかをご確認ください。

3. 警告メッセージが出ます。ご確認後、'OK' をクリックしてください。

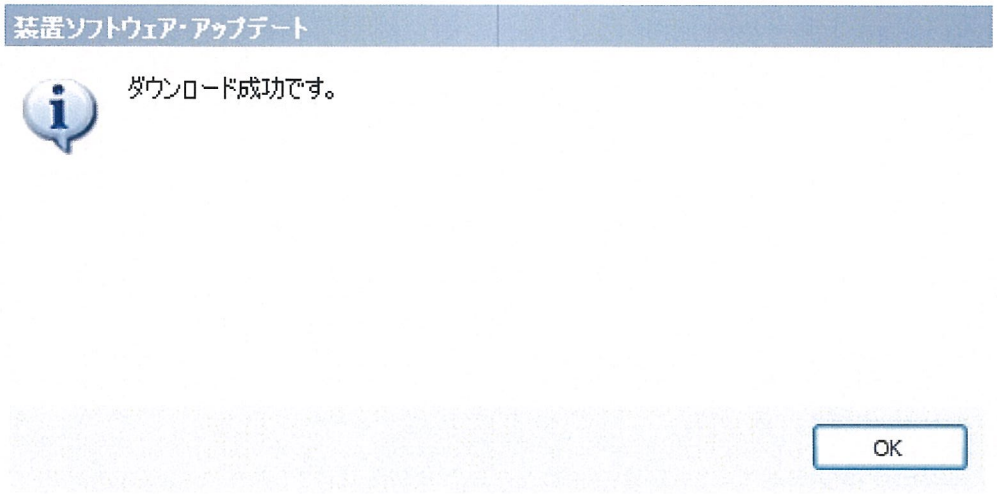


4. アップデートを進めるため、'OK' をクリックします。

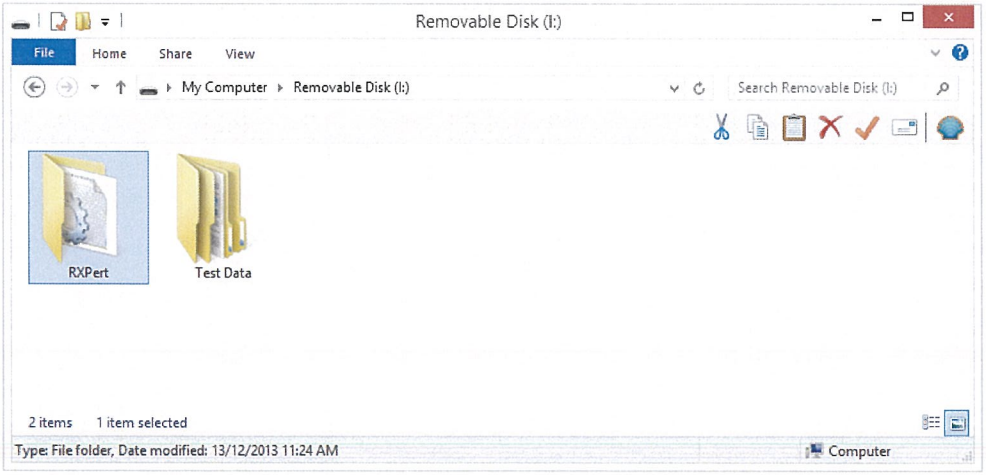


5. アップデート中、ステータスバーが進行状況を表示します。

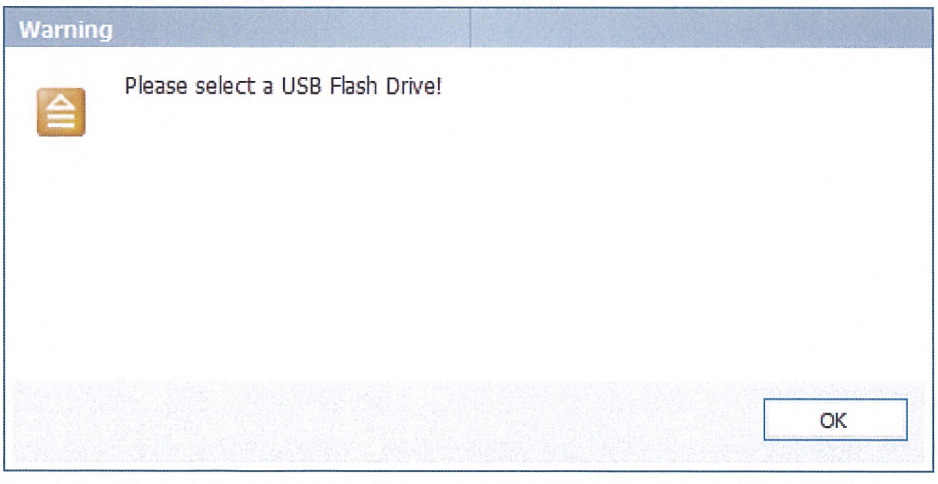
コピー作業が完了すると下記のように表示されます。'OK' をクリックし、先に進みます。



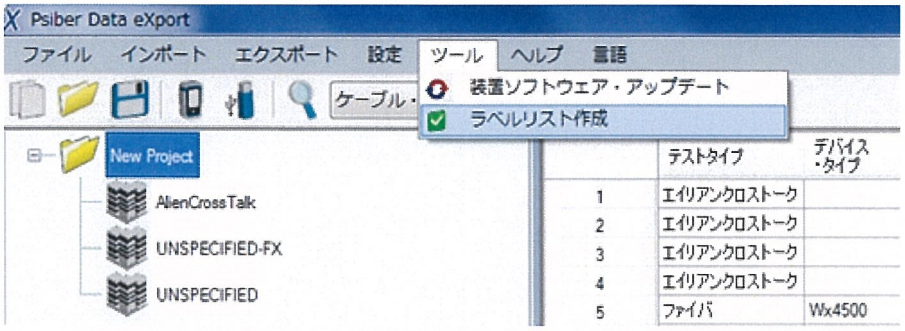
6. ファイルは USB フラッシュディスクのフォルダにある"RXPert" フォルダに保存されます。



7. USB フラッシュドライブがない場合、すぐに接続してください。



List-Based テスティング -階層



※この機能での言語は英語のみとなります。ご注意ください。

ツール＞ラベルリスト作成にいきます。

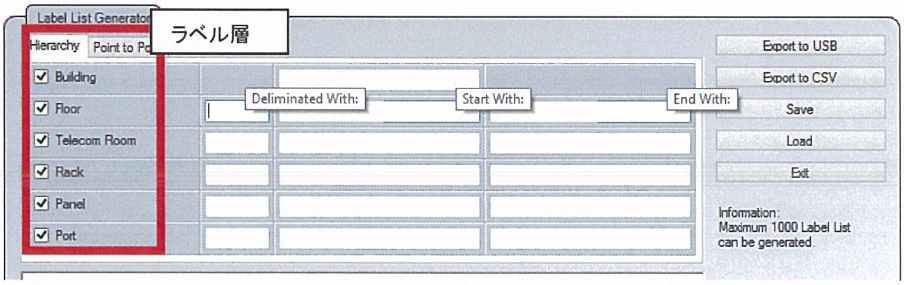
ラベルリスト作成機能では、カスタマイズ可能な階層を作成できます。ケーブル認証作業前に、各試験後にラベルを作成する手間を省けます。実際は、ビルの名前＞フロア＞テレコムルーム＞ラック＞パネル＞ポートの順序です。事前定義したラベルを装置にインポートし、不規則に作業する場合に二重試験の防止になります。

ラベルの段や層はラベルの階層を意味します。

“Delimited with”：各ラベルの層間でのテキスト分類。不要ならブランク。英数字とアスキー文字を使用。

“Start with”：階層の最初のラベル。英数字のみ使用。

“End with”：階層の最後のラベル。入力量によってラベル数が増える。英数字のみ使用。



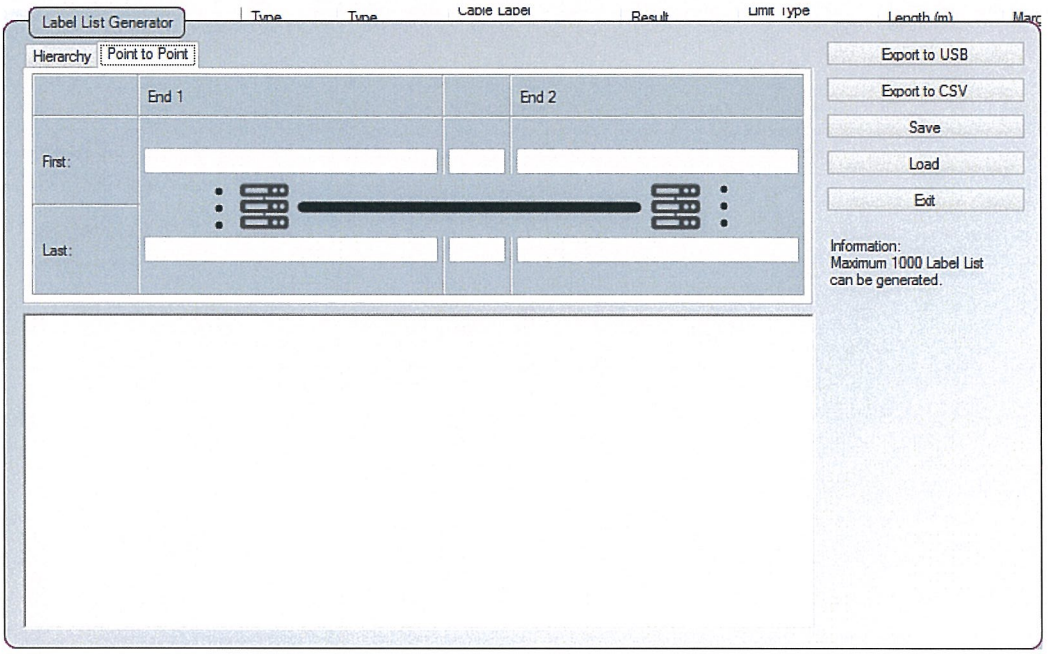
例

Start With	End With	作成ラベル
ビル名-フロア_01	ビル名-フロア_10	10
ビル名-L01-ルーム A	ビル名-L01-ルーム F	6 *英数字の最終ラベルも増える*
ビル名-#01-ルーム A-A1	ビル名-#02-ルーム-B5	20 *作成ラベル:* *ビル名-#01-ルーム-A1~A5* *ビル名-#01-ルーム-B1~B5* *ビル名-#02-ルーム-A1~A5* *ビル名-#02-ルーム-B1~B5*

List-Based テスティング -ポイントツーポイント

※この機能での言語は英語のみとなります。ご注意ください。

ポイントツーポイントラベル作成機能では、A 点から B 点のような直線的な接続で使用するラベルを作成できます。例として、パネル 2 点間でのバックボーンあるいは接続ターミナネーションです。

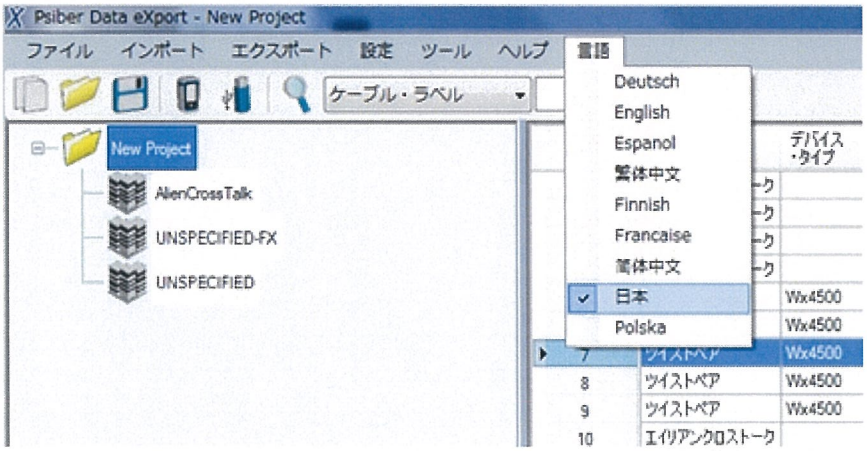


第6章:ローカリゼーション

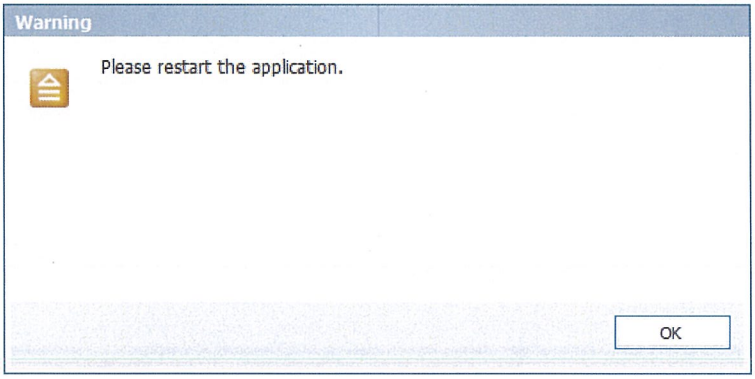
言語の選択

次の言語が使用可能です。– 日本語、英語(初期設定)、独語、フィンランド語、中国語(共通)、仏語他

1. 言語から、ご希望のものを選択してください。



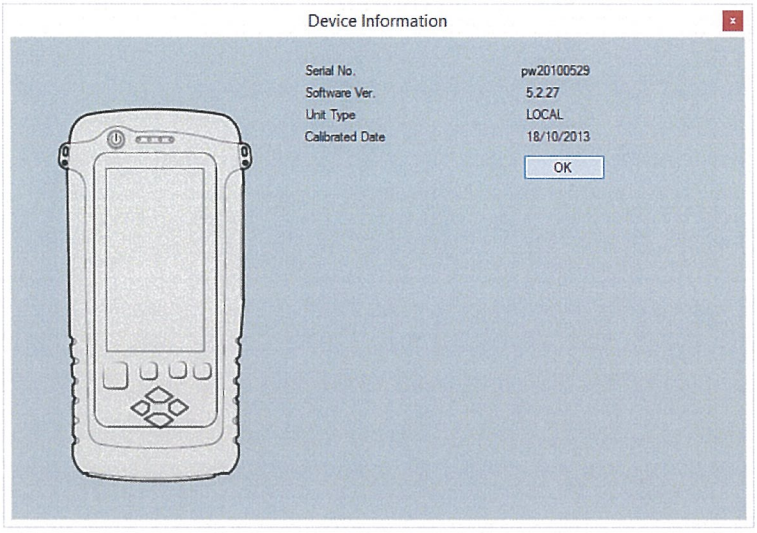
2. eXport をリスタートするため、OK をクリックしてください。



PC 上の装置の閲覧

1. ワイヤーエキスパート WX シリーズを PC に接続後、ステータスバーに表示されている Connected の横にあるデバイスアイコン をクリックしてください。

2. 装置情報を選択し、装置の製造番号・ソフトウェアのバージョン情報、校正日時を閲覧します。'リモートディスプレイ' を選択し、PC を通じてメインユニットに遠隔アクセスします。このオプションを使って、スクリーンキャプチャ(イメージ)、動画保存、スクリーン拡大(ズーム)等の機能が使用できます。



以上